

事業報告

自 2015年 4月 1日

至 2016年 3月31日

社会福祉法人 溪 仁 会

2015年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

入所は、上期においては概ね、予算稼働率を達成したが、下半期における入院増加において新規入所者調整に時間を要し大幅に目標値を下回っている。2015年4月より要介護3以上の新規入所受け入により、待機者整理を行ったところ、早急に入所できる利用者が減少。新規入所調整に時間を要する結果となった。合わせて、介護人財不足により、利用者家族が望む入所日に調整できなかったことも影響している。(2014年度38名の入院、2015年71名の入院で退院者は前年度を下回る)

短期は、概ね、予算稼働率を達成したが、個別機能訓練加算の取得が予想より半減し、利用者単価が下回った。今後の課題である

GHは、ほぼ目標予算稼働率を達成し順調に推移。長年の課題であった、介護職員の充足も達成できた。しかし、今後も予算は許さないものの、長期雇用によりサービスの質向上を目指す。

デイは、短期入所事業とともに居宅介護支援事業所への営業実施。大幅な新利用者獲得とはならなかったが、今後も引き続き営業活動は継続すべき。今後、要介護利用者を対象とした小規模通所介護事業への転換をすべきか、検討するところである。

訪問介護は、2014年度同様に2事業所ともいくら募集をかけても職員が集まらず、派遣先を縮小せざるを得ず、売上が減少することにより固定費率が上昇する悪循環に陥っている。

居宅は、こころにて介護休業の申し入れが1名あり、そのために1名の職員増員し、休職職員復職後も特定事業所加算を安定して算定するためにも雇用を継続。2つの居宅では新規受け入れ件数が60件、中止ケースが81件と上回り年間通して目標値には届かなかった。

最後に、入所、訪問介護共に介護人材不足が深刻で、互いに利用者等ニーズはあるも、新規利用者獲得後思うように受け入れができていない。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

2015年度も毎月の運営会議で、先月の介護報酬の分析と今後の改善・対処事項の確認を行い、特に部門毎の人員費率と利益率の提示を行い、結果として各率を認識するのではなく、逆に売上高の目標を認識してもらう事に重点をおいてきた。

また、昨年度開始になった地域貢献も継続し、西円山病院見学、施設看護部長からの認知症に関する講和や管理栄養士による「栄養学的視点にアンチエイジング食」の講和、食事の提供という形式で実施した。また地域住民の協力の基に「福祉避難場所訓練」も実施してきた。今後も何等かの形で地域とのかかわりを持ちながら相互の理解と協力体制を深めて行く。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

<西円山敬樹園（特養・短期・通所・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘・こころ（訪問・居宅）>

医師：2名（非常勤）、看護職員：11名（内3名非常勤）、介護職員：82名（内9名非常勤）、生活相談員：5名、介護支援専門員：8名、介護予防：3名、作業療法士：2名、言語聴覚士：1名、管理栄養士：1名

常勤ホームヘルパー：6名、非常勤ホームヘルパー：38名、

事務職員他：11名

合計職員数 170名（常勤職員118名、非常勤職員52名）

○2014年度職員異動状況（常勤職員）

採用：20名（看護職員：6名、介護職員：14名）

退職：24名（看護職員：3名、介護職員：21名）

4. 研修参加・実施状況

○ 外部研修参加（施設職員参加状況）46回 通所介護：4回 訪問介護（敬）：6回

訪問介護（こ）：22回 居宅介護（敬）：29回 居宅介護（こ）：19回 西円山の丘：14回

○ 内部研修 入所：事故防止2回・感染予防2回・抑制廃止/高齢者虐待防止1回・褥瘡予防1回・介護技術研修1回

その他（新人職員研修・緊急時/災害時の対応・食事ケアと口腔ケア・理念の浸透・個人衛生・

看取り等について）等：13回 通所介護：4回 訪問介護（敬）：6回

訪問介護（こ）：22回 居宅介護（敬）：10回 居宅介護（こ）：6回 西円山の丘：7回

2015年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>44,652 人</u>	<u>43,335 人</u>
一日平均入所者数	<u>122.0 人</u>	<u>117.1 人</u>
入所待機者	<u>201 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.64</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. _____</u>	
	<u>3. _____</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,660 人</u>	<u>3,437 人</u>
一日平均入所者数	<u>10.0 人</u>	<u>9.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.9</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>6,087 人</u>	<u>5,767 人</u>
一日平均利用者数	<u>23.5 人</u>	<u>22.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>7,269 回</u>	<u>6,217 回</u>
(介護保険外)		<u>2,129 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>19.9 回</u>	<u>17.0 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.9</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,547 件</u>	<u>1,470 件</u>
(うち介護予防)		<u>223 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> (要支援1・2を除く)	

【介護予防センター】

(円山)

延相談件数 150 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：34 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：60 件 その他：64 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>33 回</u>	<u>502 人</u>
介護予防教室	<u>41 回</u>	<u>391 人</u>
転倒予防教室	<u>35 回</u>	<u>265 人</u>
認知症予防教室	<u>45 回</u>	<u>358 人</u>
研修会・講演会	<u>1 回</u>	<u>11 人</u>
その他	<u>54 回</u>	<u>1,353 人</u>

(曙・幌西)

延相談件数 152 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：37 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：93 件 その他：60 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>33 回</u>	<u>728 人</u>
介護予防教室	<u>17 回</u>	<u>406 人</u>
転倒予防教室	<u>10 回</u>	<u>248 人</u>
認知症予防教室	<u>10 回</u>	<u>253 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>55 回</u>	<u>2,080 人</u>

2015年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

目 標

実 績

延入所者数 9,740 人 9,608 人

一日平均入所者数 26.7 人 26.3 人

入所待機者 10 人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 2.51

協力医療機関 : 1. 札幌西円山病院

2.

3.

2015年度 事業報告

ケアセンターこころ

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>7, 7 4 3 回</u>	<u>7, 1 4 1 回</u>
（介護保険外）		<u>4, 2 0 7 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>2 1. 2 回</u>	<u>1 9. 5 回</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 2. 2（要支援1・2を除く）

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1, 3 7 0 件</u>	<u>1, 2 4 0 件</u>
（うち介護予防）		<u>7 6 件</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 1. 9（要支援1・2を除く）

2015年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

- 「利用者満足（CS）の向上」～年度の施設内外研修計画に基づき、介護技術の向上・習得のみならず、「虐待」「接遇」といったキーワードを重要視し実施して参りました。慢性的なマンパワー不足を職員の力量にて全てをカバーするには至りませんでした。2016年度は今一度基本に立ち返り、専門職としての努力を惜しむことなく、更なる安全で安心していただけるケアサービスを提供して参ります。
- 「職員満足（ES）の向上」～ワークライフバランスの推進の有給休暇の取得率は、2014年度取得率66.7%を上回る73.6%という結果となりましたが、この要因としては退職者による有給休暇日数の消化なども考えられます。一方で安全衛生委員会の実施状況は、幹部職員に対しては委員会の趣旨や役割の理解を得られたものと感じております。2016年度は「安全衛生委員会の強化」を全面的に打ち出して、職員一人ひとりのストレスチェックやメンタル面の把握と「自己申告書」における課題解決に努めてまいります。また慢性的なマンパワー不足から、今後の職員確保難を考慮し、勤務体制を変更し試行的に運用を実施いたしました。今後も一層職員確保が容易でなくなるについて、職員への理解を求めながら、現行体制を更に確立して参りたいと考えております。
- 「地域満足（LS）の向上」～町内会や近隣マンション管理組合等への会場開放に加え、札幌市社会福祉協議会からの要請により、一般市民啓発研修「社会福祉施設見学セミナー」や「札幌市市民後見人養成研修」を当施設にて実施いたしました。また、近隣の老人保健施設との合同による施設周辺清掃活動を実施し、微力ながらも地域貢献を図って参りました。今後も地域の皆様などからのニーズ発掘に努め、更なる地域への公益的な取組みを積極的に行って参ります。
- 「経営満足（MS）の向上」～2015年度の介護保険制度改正で特養入所判定基準が改正となり、「日常生活継続支援加算」を算定できた一方で、加速的な要介護度の上昇と既存入居者による重度化などが重なり、要介護4以上の待機者発掘がスムーズに機能せず、また、通所も2014年度末からの利用中止などが上半期以降にまで影響が及んでしまいました。2016年度は、以上の反省等を踏まえ、特例利用枠の積極的な活用と法人内豊平地区における連携を強化しつつ、居宅サービスを含めた利用者増を図って参ります。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 毎月1回 施設運営会議において経営状況の課題について協議・報告を実施した。
- 参加者： 施設長、施設ケア部長 他 各部署責任者
- 内 容： 毎月における各事業の目標収益・支出（人件費・事業費・事務費）・一日平均利用者数の達成状況確認と検証、加算算定状況の確認、平均要介護度の推移、人件費率及び利益率、新規加算算定取得に向けた数値確認など

<成 果>

- 当施設経営状況の実態と居宅サービス（通所・短期）利用者の動向についての共通認識が図られた。
- 入所判定基準改正に伴う平均要介護度の上昇と「日常生活継続支援加算」の算定により若干の増収が図られた。
- 通所における要介護利用者比率の底上げ意識の醸成と利用キャンセルに伴う振替利用の徹底が図られた。

<今後の展開>

- 上記取り組みの継続強化と新たな加算の算定に向けた協議並びに施設内における入所受入判定基準の広範化に努めてまいります。

3. 職員状況（3月末現在）

- 2015年3月31日職員状況<入所・短期・通所>
管理者1名、医師2名（非常勤）、看護職員10名（内非常勤1名）、介護職員60名（内非常勤10名）、生活相談員3名（通所管理者含む）、介護支援専門員1名（入所）、理学療法士1名、管理栄養士1名、事務職員・送迎運転手5名（内非常勤3名） 合計職員数84名【常勤68名（うち産育休中6名）、非常勤16名】
- 2015年度職員採用・退職等状況（施設外異動による転入含む）
採用：26名【看護職員3名（内通所2名）、介護職員21名（内通所3名）、施設管理・送迎運転手2名】
退職：25名【看護職員3名（内通所2名）、介護職員20名（内通所2名）、施設管理2名】

4. 研修参加・実施状況

- 外部研修参加状況（法人本部・溪仁会グループ内研修含む）
ユニットリーダー、ユニットケア看護職研修、認知症介護実践者研修、法人役員・施設長研修 他 延26名参加
法人本部・溪仁会グループ研修 延112名参加
- 内部研修実施状況
認知症サポーター養成講座、看取りケア、感染予防（ノロウイルス・インフルエンザ）、身体拘束・虐待防止・接遇 他
実施回数13回、延202名参加 ※外部講師5回（豊平消防署、札幌口腔外科クリニック、札幌市など）
- その他～福島県被災地施設職員派遣1名（3週間）、北海道老人福祉施設協議会研究発表会他（4演題）発表

2015年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>29,280 人</u>	<u>28,581 人</u>
一日平均入所者数	<u>80.0 人</u>	<u>78.1 人</u>
入所待機者	<u>153 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.0</u>	
協力医療機関	: <u>1. ごとう内科クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【短期入所生活介護：定員8名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,017 人</u>	<u>1,384 人</u>
一日平均入所者数	<u>5.5 人</u>	<u>3.8 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.5</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型45名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,997 人</u>	<u>8,666 人</u>
一日平均利用者数	<u>34.7 人</u>	<u>33.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.7</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括

入居・ショートともに目標の稼働率を達成した。結果、終始状況においても、人件費率及び利益率共にほぼ目標を達成した。

職員確保においては、看護職員・理学療法士などの有資格者については欠員なく推移したが、介護職員については施設基準を満たす充足率には至らず苦戦しており、65歳から75歳までの女性パートや子育て中の短時間パートの採用で繋いできた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

○2015年度の下記計画を確認した。

1. 短期生活入所介護の安定した稼働のための土日祝日・24時間ショートの受け入れを実施
2. 全職員参加型の教育（研修）の定例実施
3. 「コミュニティの丘」各施設事業所との連携

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

施設長	： 1名	栄養士	： 1名	介護職員	： 24名
理学療法士	： 1名	看護職員	： 4名	事務職員	： 2名
相談員	： 2名	医師	： 1名（嘱託）	合計	： 36名

○定期業務委託：給食・清掃洗濯・夜間警備・浄化槽管理

4. 研修参加・実施状況

○施設内研修（全職員参加）

- 4月 ・有給・時間外処理のオリエンテーション
- 5月 ・虐待研修会
- 6月 ・事故発生防止研修
- 7月 ・移動介助技術研修・ショート24、365ロールプレイ・コミュニケーション研修（対話力）
- 8月 ・防災研修・虐待研修
- 9月 ・看取り研修
- 10月 ・感染研修・直接処遇研修・腰痛予防研修
- 11月 ・リスクマネジメント・感染予防
- 12月 ・虐待研修
- 1月 ・認知症介護実践研修
- 2月 ・防災研修
- 3月 ・虐待研修

○施設外研修

- 4月 ・産業による衛生管理研修会（湊）
- 5月 ・ユニットリーダースキルアップ研修会・新任役職者研修会（湊）
- 6月 ・マスタ技術研修・こころをつなぐコミュニケーション（全老健）
- 7～9月 ・認知症介護実践研修（幸清会）
- 10月 ・岩内保健所観戦講座（保健所）・直接処遇職員研修（後志老協）
- 11月 ・施設職員研修会（日本福祉学院）・心身の仕組みを生かした介護技術研修（日本福祉学院）

2015年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：店員50名】

	目 標	実 績
延入所人数	<u>18,300 人</u>	<u>18,724 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>51.1 人</u>
入所待機者	<u>0 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.4</u>	
協力医療機関	: <u>1. 指定管理者 医療法人溪仁会 泊村茅沼診療所</u>	
	<u>2. 岩内協会病院</u>	
	<u>3. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：店員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,928 人</u>	<u>2,352 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>6.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.71</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

2015年度は、新介護報酬への対応として、「日常生活継続支援加算」の早期算定を目標とし、きもべつは4月から、るすつは8月からそれぞれ算定を開始し、概ね目標アベレージを維持できたことで収支目標の達成に繋がった。
又、デイサービスセンターにおいては、改修工事も予定通り完了し、更なるサービスの充実をはかりながら利用者の維持と獲得が今後の課題である。さらに、サービスの質の向上をはかるため、各種委員会を定例開催し、内部・外部研修への積極的な支援、看取りケア（きもべつ6件）の実施、介護職員実務者研修（17名）への参加支援、ユニットの生活空間をより家庭的なものとする設えの工夫、認知症ケアへの実践として「学習療法」を継続実施（2015年12月からデイサービスセンターにも導入）し、これからの施設運営の基盤をつくることができた。

2016年度は、中長期的な視野で、施設運営に向けた組織固めと、ICT等を活用した業務の推進、外国人も含めた人材確保策の検討、さらには両町村からの新たな受託事業等の課題に取り組んでいきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第3水曜日（16：30～）開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置

- ・（留）夜勤者2名体制時の宿直体制の継続
- ・（喜）平日の日直（遅番）体制の継続
- ・介護・看護職員のシフト変更（早番・遅番の効率配置）
- ・夜勤者用インカム（無線）の導入

2) 各種加算の算定

- ・「日常生活継続支援加算」算定【（喜）2015年4月から、（留）2015年8月から】
- ・「認知症専門ケア加算Ⅰ」算定【（留）2015年5月から、（喜）2016年3月から】
- ・「栄養マネジメント加算」算定【（留）2015年5月から】
- ・看取り介護加算（喜6名）算定
- ・今後も、「認知症専門ケア加算Ⅰ」の継続取得に向け、「認知症実践者研修」及び「認知症実践リーダー研修」への積極的な研修参加を支援していく。

3) 費用等の見直し

- ・（喜）2015年4月から清掃・守衛業務の見直しにより業務委託費（年額約28万円）を削減。
- ・（留）2015年5月よりるすつに管理栄養士を配置し、栄養マネジメント加算を算定。
さらに、献立作成業務の委託を取りやめ、給食委託費を削減。
- ・2016年度は、前年度との対比により、光熱水費等の更なる経費の削減に取り組む。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況 総職員数 92名（喜64名、留28名）

非常勤医師2名、看護職員8名（内非常勤2名）、介護職員67名（内非常勤8名、派遣1名）、生活相談員兼介護支援専門員3名、看護職員兼介護支援専門員1名、管理者兼生活相談員1名、管理栄養士2名、訪問介護員2名、事務職員他6名（内非常勤1名）

○2015年度職員異動状況

採用22名【介護職員18名（内新卒3名、派遣1名、非常勤3名）、看護職員4名（内非常勤1名）】

退職17名【介護職員14名（内派遣4名）、看護職員3名（内非常勤1名）】

異動 2名【介護職員1名（菊水より）、管理栄養士1名（八雲より）】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：24回、延べ1,098名参加

看取りケア、リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇、認知症ケア等

○外部研修参加回数：（喜）60研修に延べ140名、（留）35研修に延べ61名参加

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、介護職員実務者研修、全道老人福祉施設研究大会、ユニットリーダー研修、湊仁会グループ及び本部主催研修等

○その他 東北被災施設へ2週間介護職員を派遣

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会作っていく。

2015年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,548 人</u>	<u>28,506 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.0 人</u>	<u>77.9 人</u>
入所待機者	<u>9 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.4</u>	
協力医療機関	: <u>1. 喜茂別町立クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 喜茂別歯科</u>	
	<u>4. ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>1,032 回</u>	<u>953 回</u>
(介護保険外)		<u>0 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>4.0 回</u>	<u>3.7 回</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.8</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,614 人</u>	<u>10,420 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>28.5 人</u>
入所待機者	<u>4 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.0</u>	
協力医療機関	： <u>1. 留寿都診療所</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 留寿都歯科診療所</u>	
	<u>4.</u>	

【通所介護：小規模型10名】※2015年4月1日事業開始

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,215 人</u>	<u>1,462 人</u>
一日平均入所者数	<u>5.0 人</u>	<u>6.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.3</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

○2015年度の総括

開設から2年目を迎えた「手稲つむぎの杜」は、5月には新たに「障がい者相談支援事業」を加え7事業を展開する介護・福祉の総合施設として、運営基盤の安定と組織の成長を目標に全職員体制で事業展開に取り組んできた。

その結果、全体としての事業実績は年度を通して順調に推移し、年度後半からは職員の定着も進むなど運営基盤の安定化に向って着実に前進した。個別にみると、高いハードルを課したが故に数値的には予算確保に至らなかった事業もあるが、報酬改定や要員不足などの逆風環境下にあっても、サービスの品質向上や地域における信頼関係の構築などは確実に進んでおり、数字に表れない分野においては組織として大きな成長がみられた。これらのことから、総じて2015年度の初期の目標は達成されたものと考えている。

一方、組織基盤の基礎は固まり組織も成長しつつあるが、この上に築いていくものをより確かにするためには、今一度現状を見つめ直し検出された課題を解決するとともに、中・長期的な展望に立った計画的な施設づくりを進めて行く必要があると考えている。

○今後の展開

開設3年目となる2016年度は「運営基盤の一層の強化と新たな挑戦」の年度と位置づけ、運営方針等に基づく各事業の積極的かつ効果的・着実な推進に取り組んで行くこととする。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議（原則毎月第3金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○利用者の確保

開設2年目を迎え、入所については安定的な利用者確保ができ、短期生活並びに認知通所においても新規利用者の受入により概ね予算通りの利用者数並びに収益を確保することができた。通所においては、登録利用者の長期入院等が相次ぎ、また、単価等においても介護報酬のマイナス改定の影響が大きく響いた。居宅介護支援においては、施設内各事業所とのスムーズな連携により、各事業所の利用者増に大きく貢献したものの、積極的に新規を受け入れるも終末期の短期間のケースが増加、利用者数が予算に届かない結果となった。5月より障がい者相談支援事業所「こころていね」が施設内に移転、札幌市内はもとより南後志の相談・計画も積極的に受入し、予算以上の数字を残した。

○各種加算の算定

入所においては4月より「日常生活継続支援加算（Ⅱ）」、短期生活・通所・認知通所においては「サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ」を算定。その他、入所においては、療養食加算、経口維持加算、看取り加算等、通所においては、個別機能訓練加算（Ⅱ）等の算定により、報酬改定の影響はあったものの、取得可能な加算については積極的に算定した。

○水道光熱費及び費用の見直し

開設初年度と2015年度とは利用者数の相違などから単純比較はできないものの、利用者数が大幅に増加したにも関わらず、ガス並びに電気使用量については、前年度比約4%の減少（10か月比較）となり、各部署と協力のもと削減が図れた。一方で冬期間の水道光熱費が2015年度においても経営に大きく影響し、次年度の継続課題となった。開設2年目を迎え、使用物品の統一化や各業者との価格交渉により、消耗品等の費用の削減に努めた。

○2016年度に向けて

開設初年度は職員の離職も多く、一部短期入所の新規受入を制限しなければならない事態も発生したが、開設2年目に入り職員の入退職も落ち着きを見せ、安定した収益を確保することができた。開設3年目を迎えるにあたり、収益の確保は勿論であるが、勤務体制の見直し等適正な人員配置も検証しながら、最小の費用で最大の効果を生むことができるよう一層の経営努力が求められる。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日現在 職員状況 <入所・短期・通所・認知通所・居宅・介護予防・障がい> 合計129名（内非常勤27名）

- | | | |
|---------|---|-------|
| 1 入所・短期 | 管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員7名、介護職員54名（内非常勤3名、派遣7名）、介護支援専門員2名
理学療法士1名、管理栄養士1名、生活相談員2名、事務職員5名（内非常勤1名） | ・計74名 |
| 2 通所・認知 | 管理者2名、看護職員6名（内非常勤4名）、介護職員33名（内非常勤16名）、作業療法士1名、
運転職員3名（非常勤） | ・計45名 |
| 3 居宅・予防 | 管理者2名、介護支援専門員4名 | ・計6名 |
| 4 障がい | 管理者1名、相談支援専門員2名、相談員1名 | ・計4名 |

○2015年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

- | | |
|----------|--|
| 1 採用：31名 | 【看護職員3名（内通所3名）、介護職員24名（内通所11名）、介護支援専門員・相談員3名、事務職員1名】 |
| 2 退職：27名 | 【看護職員3名（内通所3名）、介護職員22名（内通所9名）、介護支援専門員・相談員2名】 |
| 3 異動：2名 | 【看護職員1名（白石へ）、介護支援専門員1名（こころへ）】 |

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（浜仁会グループ・キャリア支援室主催研修含む）※参加回数135回、延269名参加

新入職員研修、ユニットリーダー研修、メンタルヘルス研修、コミュニケーション研修、レクリエーション研修、キャリアデザイン研修、地域公益活動研修、認知症実践者研修、認知症実践リーダー研修、移乗介助技術研修、相談支援職員研修、疾病理解研修、キャリアバンメイト養成研修、ケアマネジメント能力向上研修、資質向上研修 他

○内部研修実施状況 ※開催回数25回、延481名参加

新入職員研修、移乗・移動技術研修、看取りケア研修、認知症ケア研修、介護保険制度研修、身体拘束・虐待防止研修、摂食嚥下・口腔ケア研修、褥瘡予防研修、転倒防止リスクマネジメント研修、感染対策研修、福祉用具・住宅改修研修、内部事例検討会 他

2015年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,914 人</u>	<u>28,920 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>79.0 人</u>
入所待機者	<u>162 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.95</u>	
協力医療機関	: <u>1. 手稲溪仁会病院</u>	
	<u>2. 手稲家庭医療クリニック</u>	
	<u>3. 安永歯科</u>	
	<u>4. </u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,624 人</u>	<u>2,602 人</u>
一日平均入所者数	<u>7.2 人</u>	<u>7.1 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.17</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>17,573 人</u>	<u>16,957 人</u>
一日平均利用者数	<u>56.5 人</u>	<u>54.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.42</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型12名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2,812 人</u>	<u>2,734 人</u>
一日平均利用者数	<u>9.0 人</u>	<u>8.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.32</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,716 件</u>	<u>1,613 件</u>
(うち介護予防)		<u>40 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.67</u> (要支援1・2を除く)	

【介護予防センター】

(まえだ)

延相談件数 8 5 件

相談内容（重複有）

介護保険制度： 2 1 件 権利擁護： 1 件 高齢者虐待： 0 件

介護予防： 2 5 件 その他： 4 6 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u> 3 1 回</u>	<u> 7 7 4 人</u>
介護予防教室	<u> 5 回</u>	<u> 1 3 9 人</u>
転倒予防教室	<u> 1 6 回</u>	<u> 4 1 0 人</u>
認知症予防教室	<u> 6 回</u>	<u> 1 6 4 人</u>
研修会・講演会	<u> 1 回</u>	<u> 1 1 5 人</u>
その他	<u> 1 回</u>	<u> 4 人</u>

【障がい者相談支援事業】

◇委託相談支援事業

新規登録者	79名	登録抹消者	48名	年度末登録者数	263名
(地区別)	中央区 1名	北区 4名	東区 1名	南区 1名	
	西区 12名	手稲区 244名			
(障がい種別)	身体 55名	重心 12名	知的 105名	精神 48名	
	発達 39名	高次脳 1名	難病 0名	その他 3名	
(児・者別)	障がい児 67名	障がい者 196名			
支援方法	訪問 599件	来所 151件	同行 162件		
	電話 403件	ケア会議 106件	関係機関 749件		
	メール 45件	その他 22件	連絡・調整 1,579件		
	登録外相談 525件	合計 3,816件			
支援分類	福祉サービスの利用に関する支援	1,541件			
	障がいや病状の理解に関する支援	32件			
	健康・医療に関する支援	229件			
	不安の解消・情緒安定に関する支援	64件			
	保育・教育に関する支援	17件			
	家族関係・人間関係に関する支援	71件			
	家計、経済に関する支援	133件			
	生活技術に関する支援	56件			
	就労に関する支援	39件			
	社会参加・余暇活動に関する支援	5件			
	権利擁護に関する支援	50件			
	連絡・調整	1,579件			

◇指定相談支援事業（サービス利用計画）

新規計画	28件	（内年度内終了者13件）
モニタリング	111件	

2015年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養部門に関しては、原則として要介護3以上の方が入居条件と変更になり、平均介護度が4.21まで上がり、医療ニーズの高い入居者も多く入退所が続いたが、他事業所との連携調整を行いほぼ目標に近い実績を上げることができた。

(一日平均入居者数：2014年度：28.2名⇒2015年度：28.3名)

小規模多機能型居宅介護については、登録定員数の緩和があり、定員数を25名から29名に増員し目標平均登録者数28.0名を設定。定期的に他事業所や病院等に営業活動実施し実績として平均登録者数27.4名まで伸ばすことができた。他事業所からの問い合わせもあり下半期はほぼ登録者数28.0名で推移することができた。2016年度は「訪問強化体制加算」を算定できるように準備を進めていきたい。また、認知症対応型通所介護(共用型定員数3名)は目標利用者数を達成することはできなかった。共用デイの特徴をもっと営業活動等でアピールし登録増となるよう努力していきたい。

事故件数は2014年度より減少傾向であり、骨折等の重大な事故はなかった。施設全体でのご利用者様やご家族様からの苦情もほとんどなく経過することができた。施設内外研修に関してもほぼ計画的に実施できた。特に施設内研修は夜勤者や公休者の為にビデオ撮りして皆が観られるよう工夫等し好評であった。今後も全職員が参加出来るような研修計画を目指したい。

職員(特に介護職員)の退職があったが、大きく業務に影響することはなかったが、人員確保が厳しい状況であることは今後の大きな課題であるとする。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第3月曜日(17:30～)開催

- 1)【認知症対応型通所介護(共用型)】についてのサービス内容・登録増のための活動
- 2)小規模多機能型居宅介護登録者の確保と利用者様の区分(要介護度)変更・入居利用者様の区分(要介護度)変更
- 3)入居、小規模多機能型居宅介護そして共用型デイ、兼任可能施設職員の在り方について
- 4)その他

<成果>

- 1)共用型デイ専用のパンフレットを作成し広い広報活動を実施したが登録増には至らなかった。
- 2)入居、小規模共に、ご本人様・ご家族様に説明し必要に応じ実施し、ほぼ目標達成できた。(入居平均介護度4以上・小規模2以上)
- 3)各職種(介護福祉士・介護支援専門員)の常勤換算等条件を満たしながら、特養・小規模多機能型居宅介護、そして共用型デイ同一敷地内での兼務可能な職員を多くして、より効率的にシフト調整ができるようになった。今後も継続して実施し業務内容見直しを図りたい。
- 4)日々の業務改善(入浴時間等について)検討⇒午前、午後と入浴時間を分けることで希望に添った時間で入浴提供できる様になった。

<今後の展開>

中重度要介護者・認知症高齢者が圧倒的に多くなる中、更なる専門性の向上と業務の効率化を図っていき「地域密着型サービス」の特徴・特色を明確にして経営改善プロジェクト活動を実施していきたい。また、地域住民様を中心に「認知症」に対する知識等の啓蒙活動を行っていきたい。

3. 職員状況(3月末現在)

○2016年3月31日職員状況

医師1名(非常勤)、看護職員3名、介護職員31名(内派遣6名)、生活相談員1名、管理栄養士1名、介護支援専門員1名、事務職員他2名、合計39名(派遣6名)

○2015年度職員異動状況

採用8名【介護職員8名(転籍1名、契約1名、非常勤1名、派遣5名)】

退職7名【介護職員6名(常勤1名、非常勤2名、派遣3名)・看護職員1名(常勤1名)】

異動0名

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：13回、延267名参加

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、腰痛防止、看取りケア、学習療法、他施設見学、等

○外部研修参加回数：44回、延55名参加

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、ユニットリーダー研修、特養看護と介護の連携協働研修、学習療法研修、リスクマネジメント研修、認知症ケアスキルアップ研修、ストレスチェック対策セミナー、相談職研修、施設長研究セミナー

○今後も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修(全職員参加)参加の機会を作っていく。

2015年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

目標

実績

延入所者数 10,404 人 10,350 人

一日平均入所者数 28.5 人 28.3 人

入所待機者 54 人 (3月末現在)

要介護度状況 : 平均要介護度 4. 2 1

協力医療機関 : 1. 広川内科クリニック

2. 白石中央病院

3. 札幌歯科口腔外科クリニック

4. _____

5. _____

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

目標

実績

延登録者数 10,220 人 10,003 人

※延通い利用者数 4, 875 人

※延宿泊数 743 人

※延訪問数 2, 066 人

一日平均登録者数	28.0 人	27.4 人
----------	--------	--------

要介護度状況 : 平均要介護度 2.25 (要支援1・2を除く)

【通所介護：認知症対応型3名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2 4 4 人</u>	<u>4 0 人</u>
一日平均利用者数	<u>1 . 8 人</u>	<u>0 . 2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2 . 2 5</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

施設名： カームヒル西円山

1. 総括

今年度は特定入居者生活介護の入居者様の入院、退所数の増加と、介護職員の不足等が重なり安定した介護収入の確保ができずに年度末を終了しました。特に、職員の不足により年度で計画していた重点課題である質向上のためのワーキンググループの学習会や特定入居者様の個別目標に基づく支援への取組が完全実施とはなりません。また、地域活動の計画時期と年度目標に掲げていたが、市老協の部会活動でもまた、当施設単独でも行動に移すことができないまま年度を終了する結果となりました。

職員の補充が円滑にできなという中で下期にはケアの提供の仕方を再構築するために、職員の資格の有無、経験等による専門職と非専門職のミックスした体制の構築を試行してきました。この取組みを適切に評価して次年度は新たな体制を検討することとなります。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

経営改善のために、従来通り「役職者会議」において一般・特定の在籍数と、予算月毎の経費執行について協議すると共に、「職員会議」にて毎月、半期毎の実績報告を行うと共に年度予算を全職員が意識しながら業務に取り組めるように適宜収支状態の報告を行い、可能な限り施設経営の状態の透明化を図ってきました。

<成果>

施設の経営状態や法人の全体の収支状況を一定程度職員に公表する中で、ただ指示を受け、ルーチン業務をこなすのではなく、各々の専門職が施設運営と、施設経営の一翼を僅かでも担っていることを意識してきた結果、経費軽減への認識が変化し、法人が掲げる「全員参加型の経営」に一步近づくことができたように思われます。

<今後の展開>

今年度は安定的経営にかかせない、介護職の確保は困難で介護報酬の請求を制限するなど収入減少の1要因となり、目標値に対し97%の達成率となった。これまで、ケアハウスは介護職員の安定的な雇用ができていたものの、他の介護施設同様に職員の確保がますます困難になってくると思われます。ケアハウスは介護度は重くない状態の方の居住系施設である今後は資格の有無にかかわらず意欲のある職員の採用し専門職として育てることも安定経営に欠かせない課題の1つと考えます。コスト意識と職員の育成この2点を重点課題として次年度に取り組む必要があると考えます。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況

看護職員：2名、介護職員：13名、相談員：2名、事務職員他：2名、合計：19名

○2015年度職員採用・退職等状況

退職⇒看護職員：0名、介護職員：3名、相談員：0名

採用⇒看護職員：0名、介護職員：5名、相談員：0名

異動⇒看護職員：0名、介護職員：1名、相談員：1名

○介護職員（1名4月採用・1名7月採用・2名8月採用・1名10月採用）

4. 研修参加・実施状況

○参加：25回 参加者：延べ119名

外部研修：老人福祉施設協議会・全国軽費老人ホーム協議会・北海道社会福祉協議会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会等

・その他、2015年度も、各職員が自主的に研修や勉強会へ参加している。（休日や有休を用いて参加。）

2015年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	36,417 人	35,522 人
（うち特定入居者）		13,343 人
一日平均入所者数	99.5 人	97.0 人
（うち特定入居者）		36.3 人

入所待機者（3月末現在）個人：99 人 夫婦：22 人 うち特定：55 人
（要支援1・2を含む）

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.3 （要支援1・2を含む）

協力医療機関 ： 1. 札幌西円山病院
2. _____
3. _____

2015年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石・白石の郷

1. 総括

白石の2015年度は新しい理念である「笑顔・敬愛・向上心」のもとでスタートしました。同時に、介護報酬のマイナス改定が施設運営に大きなダメージを与えないように慎重な運営に努めてまいりました。

白石は、老人保健施設に求められている「在宅支援機能」を強化していくことを目標としております。「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を継続して算定し続けることを基本的な目標として、より多くの利用者に在宅復帰と在宅生活の支援による質の高いサービスの提供に努めています。2015年度に在宅復帰された入所者は延48名おり、昨年度の43名を上回る結果が得られました。しかし、2015年度も老人保健施設のベッド稼働率は目標値を達成することができず、「在宅復帰率とベッド稼働率の両立」が課題として残りました。

2016年度は白石の全事業がさらに連携を強めて、在宅支援機能の強化と利用者の増加に努めてまいります。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

毎月1回、プロジェクト会議を開催して施設運営上の課題の確認と対応策について協議した。

参加者： 施設長、施設ケア部長、経営管理部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、支援相談課課長代理、支援相談課主任、施設管理課長の8名。

内 容： 利用状況（特にベッド稼働状況）の確認、介護報酬改訂による影響の確認、在宅復帰加算要件の確認及び新規加算の検討、BSC戦略目標達成に向けた検討、その他運営上の課題について協議。

<成 果>

- 1 老人保健施設は、全ての月で「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定することができた。
- 2 新たな加算として、老人保健施設は「経口維持加算」の取得に取組み対象者のサービス向上に繋がった。
- 3 新たな加算である通所リハビリテーションの「リハビリマネジメント加算（Ⅱ）」の取得に取り組み、現在は30名程であるが加算の算定とサービスの向上に繋がっている。
- 4 在宅復帰推進に向けた「コミ白パス」を多職種協同で作成し、改めて各職種の役割を確認できた。
- 5 その時々々の課題に対する対応策が協議され、白石全体の課題として改善に努めることができた。

<今後の展開>

現在の活動内容を継続して実施する。ただし、BSC戦略目標の達成度評価と新年度目標の作成については、在宅事業のメンバーを加えることで更に各部署・各職種間の一体感を強化する予定。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況

医師1名、看護職員18名、介護職員110名、相談職員27名、介護支援専門員8名、療法士13名、管理栄養士1名、事務職員他22名 合計200名 ※育児休業4名、育児短時間勤務5名

○2016年度職員異動状況

採用：25名（医師1名、看護職員1名、介護職員17名、相談職員4名、介護支援専門員1名、事務職員他1名）

退職：21名（医師1名、看護職員1名、介護職員14名、相談職員1名、介護支援専門員2名、療法士1名、運転職員1名）

転入： 2名（介護職員1名、療法士1名）

転出： 3名（看護職員1名、介護職員1名、介護支援専門員1名）

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ本部主催研修会：延98名参加 ○溪仁会グループ研究発表会：5演題発表、40名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延52名参加

○北海道老人保健施設大会：1演題発表、7名参加 ○全国老人保健施設大会：1演題発表、2名参加

○北海道作業療学会：1演題発表

○外部研修：「北海道作業療学会」3名参加、「日本作業療学会」1名参加、「理学療法士学会大会」1名参加、「北海道高齢者虐待防止推進研修会」1名参加、「介護福祉士実習指導者講習会」1名参加、他、多数の研修会に参加

○内部研修（全体研修）：「感染症についての研修会」60名参加、「メンタルヘルス研修会」51名参加

「介護施設における感染予防研修会」56名参加、「接遇研修会」61名参加、「安全運転講習会」40名参加

「防災講習会（救命講習）」57名参加、「認知症サポーター養成講座」2回開催し58名参加、他

○その他、各部署が研修計画を作成し部内研修会及び勉強会を実施。

2015年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	35,502 人	34,809 人
一日平均入所者数	97.0 人	95.1 人
入所待機者	8 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.7 （短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 札幌西円山病院	
	2. 白石中央病院	
	3. 札幌ひばりが丘病院	
	4. 東札幌病院	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	10,083 人	10,230 人
一日平均利用者数	41.5 人	41.9 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.9 （要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	5,856 人	5,852 人

【第1地域包括支援センター】

延相談件数 564 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：418 件 権利擁護：6 件 高齢者虐待：5 件
 介護予防：14 件 その他の保健福祉サービス：9 件
 認知症に関すること：14 件 消費者被害に関すること：2 件
 住まいに関すること：35 件 心身の健康に関すること：7 件
 その他：65 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
区地域ケア推進会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
個別処遇検討会議	<u>9</u> 回	<u>0</u> 回
個別地域ケア会議	<u>6</u> 回	<u>0</u> 回
運営推進会議	<u>0</u> 回	<u>70</u> 回
地区組織関係会議	<u>71</u> 回	<u>88</u> 回
その他関係機関との連携	<u>52</u> 回	<u>31</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>1,053</u> 件	<u>509</u> 件	<u>118</u> 件

【第3地域包括支援センター】

延相談件数 735 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：570 件 介護予防：23 件 権利擁護：30 件
 その他の保健福祉サービス：33 件 消費者被害に関すること：3 件
 認知症に関すること：69 件 住まいに関すること：56 件
 心身の健康に関すること：49 件 高齢者の虐待に関すること：9 件
 その他：65 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>4</u> 回	<u>0</u> 回
個別地域ケアの準備会	<u>4</u> 回	<u>0</u> 回
地区地域ケア会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回

地区連絡会議	<u>10 回</u>	<u>0 回</u>
区地域ケア推進会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
ケース検討会議	<u>11 回</u>	<u>4 回</u>
運営推進会議等	<u>0 回</u>	<u>45 回</u>
介護支援専門員連絡協議会	<u>0 回</u>	<u>1 回</u>
地区組織との連携	<u>18 回</u>	<u>41 回</u>
医療機関との連携	<u>45 回</u>	<u>2 回</u>
その他	<u>156 回</u>	<u>25 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>1,066 件</u>	<u>574 件</u>	<u>78 件</u>

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 57 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：23 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
 介護予防：24 件 その他：14 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>45 回</u>	<u>783 人</u>
介護予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
転倒予防教室	<u>8 回</u>	<u>136 人</u>
認知症予防教室	<u>8 回</u>	<u>135 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>6 回</u>	<u>540 人</u>

2015年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,487 人</u>	<u>6,272 人</u>
一日平均入所者数	<u>17.7 人</u>	<u>17.1 人</u>
入所待機者	<u>28 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.0</u>	
協力医療機関	: <u>1. よつばクリニック</u>	
	<u>2. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	
	<u>3. _____</u>	

【通所介護：一般型55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>13,175 人</u>	<u>12,123 人</u>
一日平均利用者数	<u>42.5 人</u>	<u>39.1 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

○入所（短期含む）は、87.5名/日で僅か目標に届いていないが、比較的入院退所者少なくベッドロスを最小限に抑えたことで昨年より平均値を上げることができた。また、冬場のチャレンジ2015シリーズも目標を達成することができた。

○通所リハは、新規利用者の増やイベント行事等における追加利用者等の獲得で27.5名/日の目標達成、チャレンジ2015シリーズも要介護者をイベント行事等で優先的に追加獲得し目標を達成することができた。

○訪問リハは、新規利用者が徐々に増え、現在23名の顧客を獲得しており、目標を大幅に上回る実績を上げた。

○訪問介護は、新規利用者の獲得はあるものの入院や施設入所などで利用者が減少し、1日平均6.5人で目標とする1日平均9.1人には遠く及ばなかった。

○居宅支援は、新規利用者46件と順調に増え、町からの予防委託件数増もあって目標をクリアし過去最高の実績を上げた。

○経営面では、介護報酬のマイナス改定で収益減が懸念されたが、入所、通所、訪問リハの健闘で経常収益、純利益ともに目標を上回ることができた。

○運営面では、3年続いたノロやインフル等の集団感染なく、職員の出産休業等の補充もスムーズに運びほぼ順調に運営することができた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○加算算定について、新たに通所リハマネ加算Ⅰ・Ⅱ、認知症短期集中リハマネ加算Ⅰ・Ⅱさらに経口維持加算Ⅰ・Ⅱを算定し、収益向上に取り組んだ。

○業務中の腰痛等の労災が増加しており、腰痛予防のため4月から全館放送によるラジオ体操を開始した。

○地域貢献の一環として2日間にわたり認知症サポーター養成講習会を開催、55名の職員が参加した。さらに八雲町SOSネットワーク事業（徘徊認知症高齢者の行方不明捜索）への協力関係機関として登録した。

○地域食材の活用として、八雲産ジャガイモやほうれん草、風の子餅、ほたて、服部醸造のOK味噌を使用するなど地産地消に取り組んだ。

○職員親睦レク活動として、職員家族大運動会、バトミントン大会を開催、町民ソフト大会や溪仁会ソフト大会などに参加した。

○実習生は介護福祉士養成学校から2名延べ60日、療法士養成学校から7人延べ108日の受入を行った。ほかに今金養護学校生徒の介護実習10日間、八雲高校の一日看護体験、八雲・落部両中学校の職業体験学習など受入れた。

○グループによる共同購買の取り組みなどにより費用削減を図った。また、会議時間の短縮や日中に開催することで時間外勤務の削減に努めた。

<今後の展開>

○老健事業の生き残りのため、在宅復帰に向けたプロジェクトチームを立ち上げ在宅復帰加算取得に取り組む。

○苦情は6件あり、主に職員の不注意や説明不足、対応のまずさが原因となっており、職員の接客教育に取り組む。

○介護員による虐待の疑い事案発生したことを受けて、高齢者虐待防止マニュアルを作成し職員に周知するとともに今後、再発防止に向け研修会等を開催する。

○地域包括ケアシステムの中心的役割を担うため、安定した運営基盤を確保するとともに地域貢献活動を強化する。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

医師：1名、看護職員15名（内非常勤3名）、介護職員50名（内非常勤6名）、療法士8名（内非常勤2名）、管理栄養士2名、介護支援専門員3名、相談員2名、事務職員他9名（内非常勤5名） 合計90名（常勤74名、非常勤16名）

○2015年度職員異動状況

採用：10名（看護職員3名、介護職員4名、療法士3名、）
退職：8名（看護職員2名、介護職員4名、療法士1名、管理栄養士1名）
○離職は自己都合退職4名のほか転勤1名、雇止め3名で、離職率は8.8%

4. 研修参加・実施状況

○内部研修：13回、延418名参加

主な内容：感染症予防対策研修、メンタルヘルス対策研修、腰痛予防研修、認知症サポーター養成研修、ハラスメント予防研修など

○外部研修：68回、延106名参加（内溪仁会主催研修：26回、延42名参加）

主な内容：感染管理研修、認知症介護実践リーダー研修、介護福祉士実習指導者養成研修、認知症介護実践研修、医療経営管理研修、口腔ケア研修会など

○溪仁会研究発表会：1演題発表（6名参加）

2015年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	32,208 人	32,027 人
一日平均入所者数	88.0 人	87.5 人
入所待機者	18 人	(3月末現在)
要介護度状況	： 平均要介護度 3.2 (短期療養除く)	
協力医療機関	： 1. 八雲総合病院	
	2. ヤクモ歯科クリニック	
	3. _____	

【通所リハビリテーション：定員45名】

	目 標	実 績
延利用者数	8,525 人	8,526 人
一日平均利用者数	27.5 人	27.5 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.0 (要支援1・2を除く)	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>1, 2 2 0 人</u>	<u>2, 1 4 9 人</u>
一日平均利用者数	<u>5. 0 人</u>	<u>8. 8 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3. 1</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>2, 8 3 2 回</u>	<u>1, 8 4 4 回</u>
(介護保険外)		<u>1 6 7 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>9. 1 回</u>	<u>5. 9 回</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2. 2</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1, 0 2 0 件</u>	<u>1, 0 3 9 件</u>
(うち介護予防)		<u>1 4 3 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2. 0</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

- ・2015年度の入所（短期療養を含む）の一日平均入所者数は、79名と目標を達成した。
入所者内訳：在宅11名、施設0名、病院8名、再入所3名、合計22名。年度平均介護度2.71。
退所者内訳：在宅1名、施設2名、入院17名、死亡9名（内看取り8名）、合計29名
- ・通所リハビリの1日平均利用者数は、43.87名となり、昨年度と同等の利用者を確保。
- ・通所介護の1日平均利用者数は、18.6名と4名以上目標を下回った。
- ・2015年度は、ノロウイルスの罹患者は発生しなかったものの入所者のインフルエンザ罹患者が少数ではあるものの発生し、家族等への対応に労力が割かれた。
- ・感染症対策は、ドライミストによる湿度管理、次亜塩素酸による施設内消毒、全トイレ周りの1日2回の消毒を継続して実施した。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

前年度に引き続き経営改善プロジェクトを実施。

年度当初に目標を設定し、年度途中に進捗状況、3月の施設運営会議に実施状況・成果の報告を行った。

<成果>

各部署において経営改善計画達成を目標に業務改善を行ってきた結果、一年を通し概ね安定した経営を維持することができたのではないかと考える。

<今後の展開>

改善に終わりはなく、将来に渡って利用者様に愛される施設運営を目指すためにはより高いレベルでの発想が必要となることから、今年度においても目標を設定し、より良い施設環境整備や安定した経営を目指していきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況

（CH美唄）医師1名、看護職員13名（内非常勤1名。准看護師含む）、介護職員53名（内非常勤13名）

栄養士1名、相談員3名、事務・施設管理7名、療法士7名、清掃・運転13名（全て非常勤）

合計：97名（内非常勤27名）

（すまいる）介護支援専門員：4名、訪問介護員：25名（内非常勤20名）、看護職員：2名

介護職員：6名（内非常勤2名）、経営管理課等：8名（内非常勤4名）

合計：45名（内非常勤26名）

○2015年度職員異動状況

（CH美唄）看護職員⇒採用 0名、退職 1名、療法士⇒採用 3名、退職 1名、介護職員⇒採用10名、退職 7名

清掃運転⇒採用 1名、退職 1名

（すまいる）介護職員⇒採用 8名、退職 2名

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

（CH美唄）実施回数：40回、延100名参加・人材育成の為、積極的に研修受講を促した。

主な研修名称：溪仁会グループ研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士会研修会、道社協主催研修会他

（すまいる）溪仁会グループ主催の職員合同研修会等：0名参加、その他の集合研修：延50名参加

職員対象の内部研修：延382名参加、訪問介護事業所内研修：1回/月、通所介護・居宅介護事業所内研修：1回/2ヶ月

・2016年度も、三事業所の合同研修会を積極的に設けて、研修の充実を図る予定である。

2015年度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,470 人</u>	<u>28,917 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.0 人</u>	<u>78.2 人</u>
入所待機者	<u>24 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.7</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 市立美唄病院</u>	
	<u>2. 宝崎歯科分院</u>	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>13,072 人</u>	<u>13,609 人</u>
一日平均利用者数	<u>40.0 人</u>	<u>43.9 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.1</u> （要支援1・2を除く）	

2015年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センターすまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	7,130 人	5,673 人
一日平均利用者数	23.0 人	18.5 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.8 (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	15,508 人	15,586 人
（介護保険外）		4,691 人
一日平均利用回数（介護保険）	50.0 人	50.3 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.8 (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	2,253 件	1,958 件
（うち介護予防）	6月からケアマネ1名減（札幌へ異動）	362 件
要介護度状況	： 平均要介護度 2.0 (要支援1・2を除く)	

【福祉入浴】（自主事業）

延利用者数	2,098 人
一日平均利用者数	13.5 人

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（LSA）】（受託事業）

対応件数	4,203 件
（安否確認： 3,787 件 相談連絡： 356 件 健康異変： 39 件	
ガス漏れ警報器： 0 件 非常呼出： 21 件 その他： 0 件	

2015年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

- 介護老人保健施設は、一日平均入所者数の目標を達成し、昨年の実績同様の結果となった。
平均介護度についても、年々上昇傾向にある。
- 通所リハビリテーションは、延利用者数は年間目標を達成することができたが、行事を開催する等営業日数を増やしたことで一日平均利用者数がやや減少したため目標を達成することができなかった。
- 訪問看護の介護保険、医療保険共に延派遣回数、一日平均利用者数の目標を達成することができなかった。
派遣回数増に向けて医療機関との連携等を含め対策が急務となる。
- 小規模通所介護は運営基準以上の職員の確保が困難となり10月末で休止届を提出、2016年3月末をもって事業を廃止した。
- 居宅介護支援は、延利用者数は目標を達成することができなかった。
2016年3月に事業所をコミュニティホーム岩内へ移転したことで、より強固な連携体制築くことができると期待する。
- 地域包括支援センターは、介護予防事業の継続に加え、地域ケア会議への活動や地域での新たな取り組み（はつらつ元気塾等）に積極的に活動することができた。
- 事業所内保育所があることにより保育所利用を希望する採用応募者が増え、雇用の機会も同様に増となっている。子育て中の女性職員の働きやすい環境がいかに必要か伺える。また、利用満足度の向上の取り組みとして懇談会の開催等を行っている。
- 職員の送迎を実施し、地域での人材の確保の機会も増えている。
- 2015年9月より新施設長を迎え、診療体制の強化、家族との面談等を積極的に行い、風通しの良い施設づくりを行っている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

- <活動状況>
- コミュニティホーム岩内の各部署長（役職者）をはじめとして在宅部門事業の管理者が経営改善に向けて、合同会議体（コミュニティホーム岩内連絡会議）内で一体的に課題解決に向けて取り組んだ。
- <成果>
- 指揮命令系統を明確化することで、速やかに課題解決に向けて取り組むことが可能となった。また、その取り組みについて合同会議体（コミュニティホーム岩内連絡会議）で情報共有することで透明性の保持や可視化ができることとなった。その一方で2015年度は通所介護サービス事業の廃止や目標数値が達成できなかった事業もある等、厳しい年度となった。
- <今後の展開>
- 2015年度は、コミュニティホーム岩内連絡会議を最高決定機関とし、介護老人保健施設事業・在宅事業の合同会議体がコミュニティの丘の課題について取組み、また、情報の共有化を図った。今後は岩内ふれ愛の郷も合流し、委員会体制等も一体的に運営を行うことで岩内の組織体制をより堅持できると考えられる。また、地域に貢献する活動を継続し、運営の充実を図っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

- 2016年3月31日職員状況 *有資格者の定数配置はできている。
- ・医師：1名（正職員0名 契約職員0名 非常勤職員0名 嘱託職員1名）
- ・理学療法士：7名（正職員7名 契約職員0名 非常勤職員0名 嘱託職員0名）
- ・作業療法士：3名（正職員3名 契約職員0名 非常勤職員0名 嘱託職員0名）
- ・栄養士：1名（正職員1名 契約職員0名 非常勤職員0名 嘱託職員0名）
- ・看護職員：25名（正職員15名 契約職員0名 非常勤職員8名 嘱託職員2名）
- ・介護職員：71名（正職員14名 契約職員36名 非常勤職員21名 嘱託職員0名）
- ・相談員：13名（正職員12名 契約職員0名 非常勤職員1名 嘱託職員0名）
- ・事務職員：9名（正職員5名 契約職員1名 非常勤職員3名 嘱託職員0名）
- ・運転手：7名（正職員0名 契約職員0名 非常勤職員7名 嘱託職員0名）
- ・合計：137名（正職員57名 契約職員37名 非常勤職員40名 嘱託職員3名）

4. 研修参加・実施状況

- ユニトリリーダー研修 1名
- 認知症実践者研修 4名
- 認知症実践者リーダー研修 1名
- KMS内部監査員基礎養成研修 1名
- 身体拘束廃止推進研修 4名
- 溪仁会グループ相談援助職合同研修会 7名

2015年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	36,234 人	36,340 人
一日平均入所者数	99.0 人	99.2 人
入所待機者	5 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.99	
協力医療機関	： 1. 岩内協会病院	
	2. 済生会小樽病院	
	3. 中村歯科医院	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	10,560 人	10,889 人
一日平均利用者数	40.0 人	39.8 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.36（要支援1・2を含む）	

【地域包括支援センター】

延相談件数 169 件

相談内容（重複有）

介護保険制度： <u>96 件</u>	代行申請： <u>22 件</u>
認知症： <u>8 件</u>	生活支援： <u>5 件</u>
権利擁護： <u>1 件</u>	高齢者虐待： <u>5 件</u>
介護予防・リハビリ： <u>6 件</u>	入所： <u>4 件</u>
その他： <u>22 件</u>	

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>0 回</u>	<u>12 回</u>
二次予防会議	<u>0 回</u>	<u>12 回</u>
センター内会議	<u>13 回</u>	<u>13 回</u>
個別ケース会議	<u>0 回</u>	<u>17 回</u>
虐待対応会議	<u>0 回</u>	<u>21 回</u>
運営推進会議	<u>0 回</u>	<u>7 回</u>
居宅・包括連絡会議	<u>3 回</u>	<u>3 回</u>
地区組織関係会議	<u>0 回</u>	<u>25 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>77 件</u>	<u>1,610 件</u>	<u>28 件</u>

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>3,402 回</u>	<u>3,058 回</u>
（うち介護保険外）	<u>1,016 回</u>	<u>745 回</u>
一日平均利用者数	<u>14.0 人</u>	<u>12.5 人</u>

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.60 （要支援1・2を含む）

【通所介護：一般型10名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2,188 人</u>	<u>1,060 人</u>
一日平均利用者数	<u>8.5 人</u>	<u>6.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.28</u> (要支援1・2を含む)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>300 件</u>	<u>278 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.48</u> (要支援1・2を除く)	

2015年度 事業報告

施設名：青葉ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2015年度の延利用者数は、14,937名で平均要介護度1.7であった。収支改善においては、実登録者数減の影響が大きく厳しい状況にある。これまでは行事による集客と日曜日営業によりある程度の収益が見込めたが、行事前後の利用者数減、職員の超過勤務時間の増加、人員不足による職員の疲弊とご利用者さま満足以外のメリットが十分に得られない状況にある。小規模多機能の開を設含めた新たな事業展開が求められる。

<居宅介護支援>

コミ白石から1名出向の職員がいたので、収支的には黒字で展開することが出来た。延作成件数は、前年比▲250件となり、業務効率化により受入件数を増加できる体制を整えることが必要となる。年度末で1名退職の意向があり、職員補充が優先課題となる。

<訪問看護>

職員数を増やし利用者数に応じた人員確保を実施するも予想以上に登録者数は増えず、人件費分が余剰となり収支に影響する結果となった。職員の産休・退職により利用者受入数の調整を実施している。職員が休むとフォローできない状況もあり人員補充が優先課題となる。職員の退職に伴い、収支は改善傾向にある。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○溪仁会ハーティケアセンター運営会議・・・各事業所より運営状況及び改善状況の報告。

参加者：通所介護 … あおば・豊平・円山・新琴似

居宅介護支援 … あおば・こころまるやま

訪問看護 … あおば

開催日：毎月第3水曜日開催

○青葉ハーティケアセンター運営会議・・・通所介護・訪問看護・居宅介護支援事業所による経営改善を主に合議する。

○各事業体会議、主務者会議（DSの職種代表参加）

<成果>

○各事業所の問題点を早期に拾い上げ、対策改善に繋げることはできた。

<今後の展開>

○2016年度はセンター長制となり、事業所間連携は、運営会議が主たる情報共有の場となる。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況

- ・管理者：3名
- ・相談員：1名
- ・介護支援専門員：5名
- ・看護職員：9名（内非常勤職員4名）
- ・介護職員：15名（内非常勤職員5名）
- ・理学療法士：2名
- ・作業療法士：1名
- ・事務職員：1名
- ・運転職員：4名（内非常勤職員4名）
- ・合計：38名（内非常勤職員13名）

*各事業所とも人員の定数配置はできている。

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ・キャリア支援室主催：6名参加

○外部研修：各地区在宅ケア連絡会、褥瘡・難病・人工透析・感染症・呼吸器疾患、エンドオブライフケア、地域包括ケア、診療報酬改定研修等参加。

2015年度 事業報告

施設名：豊平ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2015年度の延利用者数は、15,310名で平均要介護度1.7であった。要支援利用者の利用調整を実施した為、予算値よりも延利用者数が大幅に下回ってしまったが、要介護の新規利用者については2014年度よりも上回っており、要介護者比率は、70%となっている。

2015年度の収支は、厳しい結果となったが、2016年度は、より一層、同業他社との差別化を図り健全なる運営を目指し、継続して積極的に要介護の新規利用者の受け入れをしていく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○溪仁会ハーティケアセンター運営会議：各事業所より運営状況及び改善状況の報告。

参加者：通所介護 … あおば・豊平・円山・新琴似
居宅介護支援 … あおば・こころまるやま
訪問看護 … あおば

開催日：毎月第3水曜日開催

○豊平溪仁会デイサービス運営会議（毎月速報後に実施）収支改善の検討や職員状況の把握

 デイサービス職員会議（毎月最終週に実施）現場での業務改善事項の検討・周知

<成果>

○各事業所の問題点の共有をすることで個々の事業所で抱えていた問題点を解決する手段が出来た。

<今後の展開>

○2016年度も上記の形を継続し成果を上げていきます。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況

・管 理 者 : 1名
・相 談 員 : 2名（内管理者兼務1名）
・看 護 職 員 : 5名（内非常勤職員3名）
・介 護 職 員 : 16名（内非常勤職員3名）
・事 務 職 員 : 1名
・運 転 職 員 : 3名（内非常勤職員2名）
・合 計 : 27名（内非常勤職員8名）

*人員の定数配置はできている。

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ・キャリア支援室主催：9名参加

○研修（内部勉強会）：偶数月に実施

2015年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2015年度の延利用者数は、17,878名で平均要介護度1.16であった。収支的には、依然厳しい状況であるとともに介護職員の欠員補充が厳しい状況にあるが、他事業所との差別化を図り健全な運営を目指す。

<居宅介護支援>

地域包括支援センター・札幌西円山病院地域連携室等各医療機関の地域医療連携室からの紹介及び喜茂別町のプラン作成などで収支は改善傾向にあった。

新規利用者数が伸びており、年間延作成件数2,379件（内介護予防127件）であった。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○溪仁会ハーティケアセンター運営会議：各事業所より運営状況及び改善状況の報告。

参加者：通所介護 … あおば・豊平・円山・新琴似

居宅介護支援 … あおば・こころまるやま

訪問看護 … あおば

開催日：毎月第3水曜日開催

<成果>

○各事業所の問題点の共有をすることで個々の事業所で抱えていた問題点を解決する手段が出来た。

<今後の展開>

○2016年度においても問題点の情報共有、改善をおこなっていき、質の高い安心・安全なサービスを提供していく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況

- ・管 理 者 : 2名
- ・相 談 員 : 3名
- ・介護支援専門員 : 7名
- ・看 護 職 員 : 4名（内非常勤職員 1名）
- ・介 護 職 員 : 20名（内非常勤職員 10名）
- ・事 務 職 員 : 4名（内非常勤職員 2名）
- ・運 転 職 員 : 4名（内非常勤職員 3名）
- ・合 計 : 44名（内非常勤職員 13名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修：介護技術研修、主任ケアマネフローアップ研修、福祉用具研修
喜茂別町地域ケア会議、介護支援専門員研修

2015年度 事業報告

施設名：新琴似ハートケアセンター

1. 総括

2015年度の延利用者数は、15,639名で平均要介護度1.4であった。年間行事の充実を図り利用者増を目指すも、延利用者数の予算未達により収支改善につながらない状況が続いている。

体験利用者数が2014年度に比べ減少傾向にあり、事業所の宣伝等を効果的に実施する必要がある。

介護職員の退職が相次ぐ中、欠員補充ができず人員基準を満たさない状況に陥りつつある。

2016年度は、事業規模見直し等の検討が必要であり、周辺の通所事業所増加の中、対象を絞るなど、差別化を図り健全な運営を目指す。

毎月第三木曜日に介護予防センターによるサロン事業を展開している。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○溪仁会ハートケアセンター運営会議：各事業所より運営状況及び改善状況の報告

参加者：通所介護 … あおば・豊平・円山・新琴似

居宅介護支援 … あおば・こころまるやま

訪問看護 … あおば

開催日：毎月第3水曜日開催

○新琴似ハートケアセンター運営会議・職員会議

参加者：管理者、全職員

<成果>

○溪仁会ハートケアセンター運営会議と新琴似ハートケアセンター運営会議間において、情報共有や課題解決について協議し、改善につなげることができた。

<今後の展開>

○2016年度は、各ハートケアセンターにセンター長を配置しセンター長会議が開催されるため、2015年度と同様、情報共有や課題解決について協議し、改善につなげていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2015年3月31日職員状況

- ・管 理 者 : 1名（常勤職員、生活相談員兼務）
- ・生 活 相 談 員 : 2名（常勤職員、介護職員兼務）
- ・看 護 職 員 : 4名（常勤職員 2名、非常勤職員 2名）
- ・介 護 職 員 : 18名（常勤職員 8名、非常勤職員 10名）
- ・作 業 療 法 士 : 1名（常勤職員）
- ・事 務 職 員 : 1名（常勤職員、介護職員兼務）
- ・運 転 職 員 : 4名（非常勤職員）
- ・合 計 : 30名

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ・キャリア支援室研修

○外部研修：各地区通所連絡会、認知症介護実践者研修、キャリア段位評価者研修

○事業所内研修：9回実施（認知症の対応、リスク管理、計画書作成等）

2015年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>16,957 人</u>	<u>14,937 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>54.0 人</u>	<u>46.4 人</u>
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 <u>1.7</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,968 件</u>	<u>1,827 件</u>
（うち介護予防）		<u>312 件</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.7</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>4,371 回</u>	<u>3,742 回</u>
（うち介護保険外）	<u>815 回</u>	<u>891 回</u>
一日平均利用者数	<u>21.2 人</u>	<u>18.8 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.2</u> （要支援1・2を除く）	

2015年度 事業報告

豊平ハーティケアセンター

【通所介護：一般型70名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	18,196 人	15,361 人
一日平均利用者数（一般型）	58.5 人	46.5 人
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 1.7 （要支援1・2を除く）	

2015年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型75名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	19,872 人	17,878 人
一日平均利用者数（一般型）	64.2 人	56.9 人
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 1.16 （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	2,238 件	2,379 件
（うち介護予防）		127 件
要介護度状況	： 平均要介護度 1.8 （要支援1・2を除く）	

【障がい者相談支援事業】

◇指定相談支援事業（サービス利用計画）

新規計画 6 件 （内年度内終了者 0 件）

モニタリング 3 0 件

新規登録者 2 名 登録抹消者 0 名 年度末登録者数 2 1 1 名

2 0 1 5 年度 事業報告

新琴似ハーティケアセンター

【通所介護：一般型 6 5 名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	1 8, 4 5 7 人	1 5, 6 3 9 人
一日平均利用者数（一般型）	5 3. 0 人	4 6. 3 人

要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 1. 4 （要支援 1・2 を除く）

2015年度 事業報告

法人本部

1. 各部・室・課の活動状況

●事業推進部

【調査企画室】

- ・OSINT情報の発信・札幌市内サービス付き高齢者向け住宅市場調査
- ・認定NPO法人シーズネットへSW派遣、脳活塾の企画開催
- ・社会福祉法人はくろう福祉協会・藤女子大学共催の介護職員初任者研修へ講師派遣企画調整
- ・株式会社日本医療企画と共催にてミドルマネジャー養成ゼミ企画開催（基礎10回・応用10回）

【在宅事業推進室】

- ・居宅相談室会議支援（4回／年）
- ・訪問介護事業会議支援（4回／年）
- ・通所事業会議支援（4回／年）
- ・施設相談職会議支援（4回／年）
- ・各会議体からの月報提出、情報共有、会議内での意見交換、ビジョン福祉35について協議
- ・通所事業はデイチャレンジを実施
- ・施設相談職会議は施設サービスチャレンジを実施
- ・訪問介護事業会議はサービス提供責任者研修を実施
- ・ハーティケアセンター運営会議への参加
- ・在宅サービス事業所管理者、リーダー等への事業運営指導
- ・医療福祉介護連携会議へ参加
- ・法人内特養、老健の入所待機者の調整に関わる聞き取り実施
- ・喜茂別町、留寿都村にて居宅介護支援事業、訪問介護事業支援
- ・喜茂別町地域ケア会議参加

【キャリア支援室】

- ・法人本部主催の研修会の開催（全8回：参加者延べ272名）
 - 衛生管理研修会の開催（1回：参加者27名）
 - 管理者研修会の開催（1回：参加者34名）
 - コミュニケーション研修会の開催（3回：参加者延べ88名）
 - 認知症研修会の開催（2回：参加者延べ58名）
 - 地域包括ケア研修会の開催（1回：参加者65名）
- ・新入職員研修の開催（全4回：参加者延べ68名）
- ・ユニットリーダースキルアップ研修（出張）の開催（4回：参加者延べ41名）
- ・メンタルヘルス研修（ラインケア）の開催（4回：参加者延べ76名）
- ・レク研修（出張）の開催（2回：参加者延べ43名）
- ・腰痛予防研修会（出張）の実施（3回：参加者延べ39名）
- ・認知症学習会の開催（4月から毎月実施、全11回）
- ・各施設・事業所の要請に応じた研修会への支援
- ・介護初任者研修講師派遣（藤女子大花川キャンパス：延べ23名、研修参加者23名）
- ・介護支援専門員受験対策講座の開催（6回開催：参加者延べ69名）
- ・介護福祉士受験対策講座の開催（10回開催：参加者延べ89名）
- ・キャリア段位評価者受講支援、外部評価者講習参加への支援

【施設サービス室】

- ・施設介護職会議の実施支援（4回／年）
- ・施設ケアマネ会議支援（4回／年）
- ・施設看護職会議支援（4回／年）
- ・各会議体からの月報提出、情報共有の実施、会議内での意見交換実施
- ・施設介護職会議では、認知症ケアの事例集作成、AI情報の分析、介護技術評価表の土台作成実施
- ・施設ケアマネ会議では、個別性を重視したプランの立案を検討、各施設実施のアセスメント情報の共有、検討
- ・施設看護職会議では、看護職キャリアラダーを作成し今年度より試行、医療材料の共同購入を提案し達成

【リハビリテーション室】

- ・法人リハ全体会議（11月）
- ・老健リハ連絡協議会の開催（6月）
- ・特養リハ会議（8月）
- ・訪問系リハ会議（6月）
- ・通所介護担当者会議（7・2月）
- ・室長の各施設への訪問（八雲12月、美唄7・12月、岩内4・5・6・8・9・11・3月）
- ・養成校の就職説明会参加（3校）
- ・社）溪仁会リハ部門合同研修会、リハ室懇親会（11月）
- ・社）溪仁会リハ部門札幌ブロック研究発表会（3月・計3回）、あおば研究発表会（1月）
- ・法人内施設・事業所への講師派遣（延べ4名、外部への講師派遣（延べ11名）
- ・言語聴覚士派遣（毎月）：月寒あさがおの郷、きもべつ喜らめきの郷、手稲つむぎの杜、菊水こまちの郷
るすつ銀河の杜、コミュニティホーム八雲、コミュニティホーム岩内、あおばデイサービスセンター
- ・作業療法士派遣（毎月）：きもべつ喜らめきの郷、菊水こまちの郷、るすつ銀河の杜、デイサービスセンター白石の郷
- ・研修受入：医療法人溪仁会の新人15名
- ・論文（北海道作業療法に2題）
- ・研究発表（溪仁会グループ研究発表会2演題、北海道作業療法学会1演題、地域創成学会1演題）
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・毎月の現況報告によるリハ室の情報収集力の向上
- ・介護保険制度改定による加算取得の推進
- ・訪問リハ事業の拡大
- ・実習受入施設の拡大
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、他

【栄養管理室】

- ・栄養管理者会議の開催（6月・10月・2月）
 - ＊情報の交換（各施設の食事サービスに関する報告、各施設の運営目標の評価報告等）
 - ＊経口維持計画事例集の作成
 - ＊介護報酬改定（経口維持加算）の対応について情報提供
- ・勉強会の開催
 - ＊ 6月：肝臓病とBCAA
 - ＊ 10月：認知症と中鎖脂肪酸油（MCT）
 - ＊ 2月：高齢者に対応した新商品の説明
- ・手稲つむぎの杜の栄養・食事サービス業務の遂行

【業務管理室】

- ・ C S R事業推進会議の開催（５回）
- ・ K M S 担当者会議の開催（２回）
- ・ 監督官庁実地指導（監査）立会い（１６事業所：介護予防含む）
- ・ 内部実地指導実施（２５事業所：介護予防含む）
- ・ 事業所事故報告確認（監督官庁報告２１９件）
- ・ K M S ・ 医療福祉介護連携会議への参加
- ・ 各施設運営会議への参加
- ・ 各職種会議への参加
- ・ 各施設への業務支援
- ・ コンプライアンス研修の開催（１回）
- ・ リスクマネジメント研修の開催（２回）
- ・ 虐待防止研修の開催（１回）
- ・ 第三者委員への報告
- ・ 顧問弁護士への相談支援

●経営管理部

【経営管理課】

- ・ 理事会（５月・１０月・３月）、評議員会（５月・１０月・３月）の開催
- ・ 経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・ 経理・総務内部相互監査の実施（７施設）
- ・ 受託業務の申出・契約・実績報告・請求等の支援
- ・ 各種補助金の請求等の支援
- ・ 定款変更等行政に対する認可申請事務（４月・６月）
- ・ 介護報酬請求システム運用支援
- ・ 各種規程等の改正（就業規則・給与規程・経理規程）
- ・ 決算・予算及び各月度速報及び確定財務諸表作成事務
- ・ 各種契約案件における入札事務（１６件）
- ・ 職員の定数管理
- ・ 各種会議への参加、他